

Essential oil Guide book 変更箇所

【ご案内・特記事項】

- ・第四版(2014年4月1日より配布開始)より、第五版(2016年9月1日発行)及び第五版(2016年9月1日発行)より、第五版(2016年12月1日発行)において変更した内容です。
- ・精油テキストの成分については、参考文献である「ケモタイプ精油事典」や精油の成分分析表などを総合的に考察し掲出していますので参考文献のバージョンアップや精油の成分分析表の変更に伴い、精油テキストの内容も変更されます。

<補足:精油成分の変動についての考え方>

精油は原料植物の産地や生育条件などにより成分が変化します。近年、精油の原料植物の不作が続き、欠品となる精油や代替植物による精油の抽出も増えてきました。サンダルウッドやローズウッドなどの木部から抽出される精油においては無計画な森林伐採の影響により原料植物が枯渇し、代替の植物(産地変更・学名変更)を積極的に利用してきたケースもあります。上記を踏まえたうえで、精油成分の変動を見ていくと、今まで気になっていた含有量や成分構成の変化をご理解いただけたと思います。同じ種類の植物から抽出される精油を安定して供給することはとても難しく、ましてや精油成分を毎年一定に保つことなどできません。これらの理由から、今後も精油テキストの内容は見直されていきますので、あらかじめ、ご理解いただけますようお願いいたします。

第4⇒第5版(2016.9.1発行)

P.	校正箇所	分類	内容
27	「カルダモン」のページ●の4番目の2行目～中略～の治療に使われています	訂正	～中略～の治療に使われて て います
137	(3) 消化器系<肝臓・胆嚢>2項目	訂正	「胆汁分泌促進作用」の一番初めに カモミール・ローマン 追加
151	「精油ガイド一覧」ゼラニウムの科名「フクロソウ科」	訂正	フウロソウ科

第5 (2016.9.1発行) ⇒ 第5版 (2016.12.1発行)

訂正・一部追加⇒**赤字**／削除⇒**青文字**／5版の訂正⇒**緑文字**

P.	校正箇所	分類	内容
1	2行目 基本精油32種	訂正	32種⇒ 31種 ※ローズウッドの精油取引中止に伴い削除されたため
1	3行目 「体・肌・心に対する働き」	訂正	「主な作用」
2	シダーウッド	追加	シダーウッド(バージニア)
2	フランキンセンス	追加	フランキンセンス(乳香)
2	ベンゾイン	追加	ベンゾイン(安息香)
2	ミルラ	追加	ミルラ(没薬)
2	ユーカリ	追加	ユーカリ(グロブルス)
2	ローズウッド	削除	ローズウッド ※ローズウッド精油は原料植物が枯渇の状況にあるため
2	ローズマリー	追加	ローズマリー・ シネオール
5	医師法・薬事法について	訂正	医師法及び医薬品医療機器等法について ※法律改訂のため
6	8行目 それらの作用が強いかどうかの判断ができ	訂正	肌に合うか判断ができます。
8	表中:学名 オドラータ	訂正	オドラタ
8	①多量(高濃度)に用いるのは控えましょう。	訂正	①多量(高濃度)及び長時間の使用は吐き気や頭痛を起こすことがあります。(低血圧の人は特に控えましょう)
8	②長時間の使用は控えましょう。	削除	②長時間の使用は控えましょう。
11	●ハーブ調の香り・・・カモミール・ジャーマン	移動	●花をイメージする香り【カモミール・ジャーマン】→●ハーブ調の香りに移動※全版訂正
12	イラスト横の説明	追加	太陽が心を温かく照らしてくれるような感じを受けるので、ストレスを感じている時に助けになる精油です。また、主要成分のリモネンの多岐にわたる作用と、他の精油とのブレンドの相性が良いことから、活躍の場面が多い精油です。
12	表中:香り 柑橘系特有	訂正	柑橘系→ 柑橘類
14	表中:体全体	削除	②解熱作用があります←削除します
20	8行目 安心して子供にも使える	削除	安心して子供にも使える ※肌に刺激があり使えないケースもあったため
20	注意事項	追加	②キク科アレルギーやブタクサアレルギーの方は、必ずアレルギーテストを行ってから使用しましょう。
23	●ハーブ調の香り・・・カモミール・ジャーマン	移動	●花をイメージする香り【カモミール・ジャーマン】→●ハーブ調の香りに移動※全版訂正
24	左上 鳥のマーク	※	正しくは「実や種子」のマーク→全版訂正
34	循環器★～中略～<水分の滞留～中略～	削除	水分の滞留⇒削除⇒(正)浮腫み、セルライト、薬剤中止後の体の浄化
35	●ハーブ調の香り・・・カモミール・ジャーマン	移動	●花をイメージする香り【カモミール・ジャーマン】→●ハーブ調の香りに移動※全版訂正

40	イラスト横の説明	追加	サンダルウッドの精油の原料(→原料)植物である学名 <i>Santalum album</i> は枯渇危惧種植物で非常に入手困難なため、現在、ニューカレドニア産の学名 <i>Santalum austrocaledonicum</i> やオーストラリア産の学名 <i>Santalum spicatum</i> が原料として使用されています。
40	表中:学名 <i>Santalum album</i> (サンタルム アルブム)	訂正	<i>Santalum austrocaledonicum</i> (サンタルム アウストロカレドニウム)
40	表中:主な産地 インド、インドネシア他	訂正	ニューカレドニア、オーストラリア 他
48	イラスト横の説明	追加	ジャスミンの精油の原料植物には、他に学名 <i>Jasminum grandiflorum</i> があります。
52	注意事項	変更	順番変更→①妊娠中 ②多量(高濃度) ③腎臓 ④頻発月経 ⑤長期
56	主な産地	変更	順番変更→エジプト、レユニオン島、中国 他
57	●その他	※	正しくは オキシド類…微量<主な成分>ローズオキシド アルデヒド類…微量<主な成分>シトラール(ゲラニール、ネラール)
64	注意事項	追加	②妊娠中の使用は極力控えましょう。
67	香りの相性 【花をイメージする香り…カモミール・ジャーマン】	移動	●花をイメージする香り【カモミール・ジャーマン】→●ハーブ調の香りに移動※全版訂正
68	イラスト横の説明	追加	パチュリーの精油の原料植物には、他に学名 <i>Pogostemon cablin</i> があります。
72	左上 鳥のマーク		正しくは「実や種子」のマーク→全版訂正
73	●その他 アルデヒド類…微量<主な成分>ピペナロール	削除	
80	4行目 子どもの場合は同様にブレンドする滴数全体の5%以下とします。	削除	※削除理由…体質により合わない子どももおり大きなトラブルになることを防ぐため削除とします。
84	注意事項	追加	③敏感肌を刺激することがあります。
88	イラスト横の説明	追加	ベンゾインの精油の原料植物には、シヤム産(タイ)の学名 <i>Styrax benzoin</i> の他に、スマトラ産の学名 <i>Styrax tonkinensis</i> があります。
96	イラスト横の説明	追加	ミルラの精油の原料植物には、他に学名 <i>Commiphora molmoli</i> や <i>Commiphora abyssinica</i> があります。
100	注意事項	追加	④前立腺肥大症の方は使用を控えましょう。
103	10行目 ~中略~なので、	訂正	なので→これにより
104	注意事項 ④長時間の使用	訂正	長時間の使用→長期にわたる使用
104	注意事項	追加	⑥てんかんの発作を起こすことがある方は極力使用を控えましょう。
105	モノテルペン炭化水素類<主な成分>	追加	サビネン
105	セスキテルペン炭化水素類<主な成分>	追加	ゲルマクレンド
117	モノテルペン炭化水素類<主な成分>	追加	α-ピネン
120	イラスト横の説明	追加	レモングラスの精油の原料植物には、他に学名 <i>Cymbopogon flexuosus</i> があります。
120	注意事項	追記	④前立腺肥大症の方は使用を控えましょう。
128 ~ 131	ローズウッドの記載全て	削除	※ローズウッド精油は原料植物の危機的枯渇状況のため精油ガイドブックより削除します